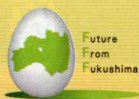


# 福島県特別支援学校

## 体育連盟だより



ふくしまからはじめよう。

平成31年2月発行

福島県特別支援学校  
体育連盟 事務局  
(福島県立あぶくま支援学校内)

福島県郡山市中田町赤沼  
字杉並139番地

### 第17回福島県特別支援学校 スポーツ大会総評

## 「成果と波及」

特別支援学校体育連盟会長 上妻 弘  
あぶくま支援学校校長



福島県特別支援学校スポーツ大会は、県内特別支援学校高等部生徒が日頃の部活動等の成果を発揮できる場を作りたい、互いに競い合い交流できる場を作りたい、との強い思いが結実し、今回で17回目を迎えることができました。スタートした当初と比較すれば、選手一人一人の力量やチーム力の向上、効率的な大会運営等、隔世の感があります。これまで本大会に携わられた関係者の皆様のご尽力に対し敬意を表するとともに、心より感謝申し上げます。

さて、今年度の大会では、優勝候補と目されるチームが圧倒的な力で予想どおり優勝するという試合もありましたが、多くはわずかな差で接戦を制する見応えのある試合、手に汗握る試合が多かったと思います。それだけ、各校、各チームの力量が拮抗していることの表れであり、指導者が選手一人一人の特性に応じた適切な指導を行ってきた結果であると思います。

また、大勢の観客の前で大きな歓声や激励の言葉を受けながら試合に臨む選手は、これまでにない緊張感を味わったり、大きなプレッシャーを感じていたりしていたと思いますが、それらの重圧をはねのけて前進しようとする姿を随所で見ることができました。選手一人一人がチームの勝利を願い、チームのメンバーを信じ、心を一つに試合に望む姿は、勝敗を超えて、非常に美しい光景でした。

今年度より特別支援学校体育連盟事務局はあぶくま支援学校に固定することとなりました。事務局では、本大会が参加した生徒一人一人にもたらす成果を鑑み、高等部生徒だけの大会で終わらせるのではなく、生涯スポーツという観点から長期的なスパンで捉え直し、小学部や中学部の段階からスポーツに慣れ親しめるよう、基礎基本の習得から実践的な対応まで段階的に指導を積み上げていけるような対応について、あるいはスポーツ大会等の観戦の機会を設ける等の対応について、検討することも今後必要になるのではないかと考える次第です。

## 第17回福島県特別支援学校スポーツ大会を振り返って

第17回福島県特別支援学校スポーツ大会実行委員長  
大笹生支援学校校長

片寄 一



昨年度に引き続き、本校が幹事校として大会の準備及び運営を担当しました。各競技の大会運営を行った役員並びにボランティアの皆様の御協力により、本大会を無事に終了することができ、関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。

今年度の大会を振り返ってみますと、各競技への参加申込み生徒数が521名となり、昨年度と同程度のエントリー数でした。また、大会役員、ボランティアを含めた総参加者数は約800名余りとなりました。本大会ではバスケットボール、ボッチャ、陸上、フライングディスク、サッカーの5競技が行われ、それぞれの競技にエントリーした選手が、日ごろの練習の成果を十分に発揮し、本大会を大いに盛り上げてくれました。特に、陸上競技リレーで「あぶくま支援学校」が3連覇、バスケットボール競技で「大笹生支援学校女子チーム」が2連覇、サッカー競技では「石川支援学校」が同じく2連覇をするなど、継続したチーム力の強化が、この素晴らしい成績につながったものと思われます。

大会の運営面につきましては、各競技の専門委員長を中心に事前打合せを行い、プログラム編成会議により実施方法や内容を検討・確認するとともに、前日の会場作成と当日の大会運営など、概ね計画どおりに進めることができました。また、大会を支えるボランティアにつきましても、福島東高等学校、東北福祉大学、福島大学、福島学院大学、東邦銀行、福島銀行、福島トヨペットの皆様など、約70名の方々にお手伝いをいただきました。本当にありがとうございました。

2020年東京オリンピック・パラリンピック大会が2年後に開催されます。このような中で、障がい者スポーツを含めてスポーツに対する関心が高まり、各種大会も盛んに行われるようになっていきます。このようなことから、福島県特別支援学校スポーツ大会が特別支援学校で学ぶ生徒のスポーツの祭典として、今後さらに充実した大会となることを願っております。次年度の大会にも各特別支援学校から多くの選手の参加をお願いいたします。